



Association of decreased levels of soluble and endogenous secretory receptors for advanced glycation end products with accumulation of metabolic components: the difference between sRAGE and esRAGE

著者名	守屋 里織
発行年	2014-03-14
URL	http://hdl.handle.net/10470/30630

主論文の要旨

Association of decreased levels of soluble and endogenous secretory receptors for advanced glycation end products with accumulation of metabolic components: the difference between sRAGE and esRAGE (可溶性終末糖化産物受容体と内因性分泌型終末糖化産物受容体はメタボリック症候群のコンポーネント重畳により低下する: sRAGE と esRAGE の異同について)

東京女子医科大学大学院
内科系専攻神経内科学分野
(指導: 内山真一郎教授)
守屋 里織

Atherosclerosis 誌 投稿中

【要 旨】終末糖化産物はその受容体 receptor for advanced glycation endproducts (RAGE) と結合し動脈硬化を促進する。RAGE の可溶型である soluble RAGE (sRAGE) と endogenous secretory RAGE (esRAGE) は血中に存在し動脈硬化のバイオマーカーとして注目されている。我々は初期動脈硬化 284 例における sRAGE/esRAGE の意義を検討した。血清 sRAGE と esRAGE を測定、各々の中央値で高値群/低値群に二分し、メタボリック症候群、総頸動脈の最大 intima-media thickness (IMT Cmax)、プラーク石灰化、大脳白質病変との関連を検討し、両者の異同を比較した。sRAGE と esRAGE の両者とも低値群でメタボリックコンポーネントの重畳が多く IMT Cmax 値は有意に高かったが、白質病変とは関連はなかった。sRAGE のみが低値群で石灰化が有意に多く、多変量解析では sRAGE では BMI、年齢、高感度 CRP が、esRAGE では BMI のみが規定因子であった。よって初期動脈硬化では sRAGE も esRAGE も動脈硬化危険因子やメタボリック症候群、炎症に関連して変動し、頸動脈の IMT 肥厚の程度に関連して低値を示したが、sRAGE のみが石灰化と関連しており、sRAGE と esRAGE ではその性格が若干異なる可能性が示唆された。